

美術作品のメタ情報によるフレーミング効果

—希少性フレームと経済的価値フレームの比較—¹

林直保子², 与謝野有紀³, 浅利尚民⁴, 中谷 伸生⁵, 内田 慶市⁶, 研谷 紀夫⁷

【要 約】

本研究の目的は、美術作品の解説が、作品の評価に与える影響を探索的に検討することにある。この目的のため、美術館における「平家物語絵巻」の特別展において、高校生を対象とした調査を行った。調査では、「平家物語絵巻」についての2種類の説明が提示され、回答者はそれぞれの説明を読んだ後に「平家物語絵巻」について評価を行った。2種類の説明のうち、ひとつは平家物語絵巻の希少性に焦点をあてたものであり、もうひとつは「平家物語絵巻」の経済的価値に焦点をあてたものであった。調査期間中に、142名の高校生が展示鑑賞後の調査に回答した。分析の結果、希少性に焦点をあてた説明文の後の平家物語絵巻の文化的価値の評価が、経済的価値に焦点をあてた説明文の後の同評価より高かった。この結果は、美術作品の解説のフレームが作品の評価に影響を及ぼすことを示している。

キーワード：美術鑑賞，フレーミング，内的価値，外的価値

1. はじめに

美術館や博物館の展示では通常、展示物についての解説が付されている。解説は、鑑賞者に文化財資料のメタ情報である「知」を与えるものであり、作品そのもののもつ「美」とは区別して考えることができる。本研究は、解説を、鑑賞者に美術作品の外的な価値(extrinsic value)を与えるものとして捉え、解説が鑑賞者の美術作品に対する価値評価に与える影響を検討する新しいアプローチの可能性を探ることを目的としている。

芸術作品の内的な価値(intrinsic value)は、美しさや保存状態の良さといった、作品そのものの性質として捉えることができる。一方、外的な価値は、作品がどのような系譜をもつのか、誰がどのように評価してきたのか、どのような価格で取引されたのか、といった外的な要素により影響される。そのため、作品のさまざまなメタ情報のうち、どの情報に焦点を当てるかにより、作品への評価が異なることが予想される。本研究では、作品についての説明のフレーム(枠組み)を変えることで、同じ作品の評価や作品への興味が変化するかどう

¹ 本研究は、平成27年度関西大学創立130周年記念特別研究費(なにわ大阪研究)において、課題「文・社・情連携による地域文化資源の発掘、デジタル化および地域活性資源化—DCH構築による地域研究ハブ形成の実践—」として研究費を受けたものの成果として公表するものである。

² 関西大学社会学部教授

³ 関西大学社会学部教授

⁴ 林原美術館学芸課長

⁵ 関西大学文学部教授

⁶ 関西大学外国語学部教授

⁷ 関西大学総合情報学部准教授

かを、心理学におけるフレーミングのアイディアを援用して検討する。

意思決定フレームとは、人々の意思決定についての主観的な解釈の枠組みを意味する認知心理学的概念である。意思決定のフレーミング研究では、客観的には同一の意思決定課題が、「説明の仕方」により意思決定フレームが変容し、それにより意思決定が変化する現象に焦点が当てられる⁸。このような「問題の記述の仕方による意思決定現象」を一般に「フレーミング効果」と呼ぶ。本研究は、同一の作品に対する評価が、説明の仕方により変化する「美術鑑賞のフレーミング効果」を探索的に検証するものである。

上記の目的のため、本研究では、美術館で実際に行われている文化的価値の高い作品の展示を利用して、データ収集を行うこととした。美術鑑賞のフレーミング効果は、鑑賞者の年齢やこれまでの美術品鑑賞経験等と交互作用をもつ可能性が考えられるが、本研究では、美術作品評価のフレーミング効果研究の第一歩として、幅広い層から大規模なデータ収集を行うのではなく、高校生という均一性が高く関連諸変数の分散が小さい集団を対象として、フレーミングの効果を検討する。

2. 調査

2-1 展示

本研究の目的のため、林原美術館の特別展「すべて魅せます 平家物語絵巻」の会場で調査を行った。『平家物語』は、栄華を誇った平氏一族の隆盛と、その後の源氏との争いによる没落を描いた物語で、多くの高校の古典の授業で取り上げられている。平家物語絵巻は、平家物語を描いた絵巻物であり、林原美術館の同展示では、同館所蔵の土佐左介工房制作「平家物語絵巻」（越前松平家伝来、全36巻）を中心として展示が構成された。この作品は、日本で唯一、平家物語の全文章を納めた「平家物語絵巻」として知られるものであり、美術の教科書にもその画像が頻繁に採用されてきた。展示は、会期がPart IとPart IIにわけられており、本調査を実施したPart Iでは、源頼朝や源義経を中心とした源平の合戦場面、壇の浦で平家一族が迎える悲劇の最期などを中心とした構成となっていた。

2-2 調査方法

調査期間および対象者 本調査は、林原美術館の特別展「すべて魅せます 平家物語絵巻」Part I「源平の争乱」（平成27年7月18日～8月23日）の期間中に、同展示を鑑賞したA高校の生徒を調査対象とした。

調査方法 調査対象となる生徒には、来館時に受付で調査票を手渡し、鑑賞後に受付で

⁸ 狭義のフレーミング効果は、本質的に同じ内容であっても、選択肢の表現や、提示の仕方により異なる判断をすることを指し、実証研究が蓄積されている(e.g., Tversky & Kahneman, 1981)。本稿では、フレーミング効果を、人の意思決定が「考える枠（フレーム）」に影響されるとする広義の意味で用いる。すなわち、内的価値としては同一の美術作品の評価が、説明文で与えられる外的価値のフレームにより影響されるという意味でフレーミングの語を用いている。

調査票を回収した。

調査項目 調査票は、美術施設の利用に関する質問、同展示鑑賞の感想、平家物語絵巻のデジタル展示鑑賞の感想、および以下に説明する平家物語絵巻の評価項目から成っていた⁹。平家物語絵巻の評価は、まず、平家物語絵巻についての説明文を読み、平家物語絵巻について表1に示す5項目で評価し、続いて平家物語絵巻についての別の説明文を読み、再度表1の5項目に回答するという形をとった。

表1 平家物語絵巻の評価

このような美術品がある岡山は文化的に豊かである
この作品を鑑賞できてうれしい
この作品は岡山県民の誇りである
この作品をまた観たい
この作品は、日本の誇りである

調査で用いた説明文は下記の2種類である。

説明文A：林原美術館所蔵の「平家物語絵巻」は、『平家物語』の本文（詞書）が790場面と、本文にあわせた絵画（挿図）が705場面からできており、12巻の『平家物語』をそれぞれ上・中・下の3巻に分けているため、全部で36巻、約940メートルにもなる壮大な絵巻物です。日本で唯一、全巻揃った「平家物語絵巻」として有名で、教科書などにも多く使用されています。

説明文B：昭和4年（1929年）、帝国大学卒の初任給が40円ぐらいだったともいわれるこの時代に、「平家物語絵巻」は5190円で落札されました。今の時代におけるこの作品の価値は数億円とも言われています。

説明文Aは、平家物語絵巻の作品の特徴や希少性の側面に焦点をあてたものであり、説明文Bは、作品の経済的価値に焦点をあてたものであった。二種類の説明文のいずれが先に提示されるかにより、二種類の調査票を作成し、ランダムに配布した。

2-3 回答者の属性

調査に回答した生徒の学年、性別を表2と表3に示した。回答者の大多数は、学校で同展示の鑑賞を課題として課された2年生であったが、1年生、3年生もそれぞれ数名含まれていた。

表2 回答者の学年分布

表3 回答者の性別

⁹ 特別展の会期中、「平家物語絵巻」第11巻のデジタル画像の展示が展示室の外の美術館ロビーで行われており、調査では、デジタル展示を鑑賞した感想についての項目にも回答を求めた。本稿ではデジタル展示に関する項目は用いないため、質問項目の説明は割愛する。

	人数	(%)
1年生	4	2.8
2年生	135	95.1
3年生	3	2.1
合計	142	100

	人数	(%)
男子	60	42.3
女子	82	57.7
合計	142	100

2-4 結果

2-4-1 美術施設利用

「小学生、中学生のときに、学校の行事以外で美術館へ行ったことがあるか」という質問項目に対し、78.2%が「ある」、21.8%が「ない」と回答した。「ある」と回答した生徒に対し、さらに美術施設利用頻度を尋ね、それらを併せた結果を、表4に示した。最も多かったのは「今までで数回」の40.1%であり、次いで多いのが「年1回以上」の27.5%であった。

表4 美術施設利用

	度数	(%)
年1回以上	39	27.5
3年に1回以上	14	9.9
今までで数回	57	40.1
ない	32	22.5
合計	110	100

「美術館へ行ったことがある」と答えた生徒を対象に、誰と一緒にいったかを尋ねた結果を図1に示す（複数回答可）。回答は圧倒的に「親」が多かったが、兄弟、友達同士で行ったという回答も30ケース以上見られた。

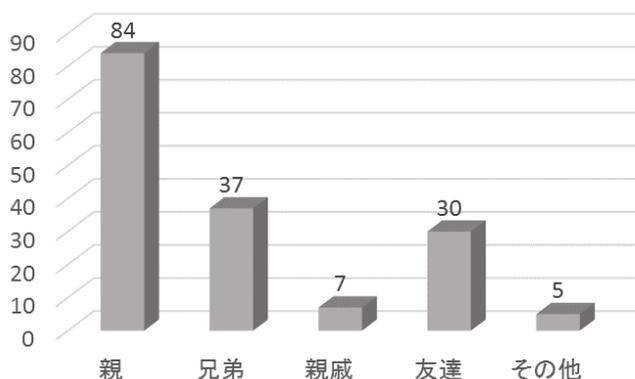


図1 美術館へ誰と行くか

美術館を利用しないと回答した生徒と「今までで数回」と回答した生徒をグループニングし、「利用頻度低群」、「年に1回以上」「3年に1回以上」と回答した生徒を「利用頻度高群」とし、男女別にまとめた結果が表5である。美術施設利用高群の比率は男子より女子の方が

高かったが、統計的な有意差は見られなかった ($\chi^2(1)=.23, n.s.$).

表5 男女別の美術施設利用頻度

		美術施設利用	
		高	低
性別	男子	19 31.7%	41 68.3%
	女子	34 41.5%	48 58.5%

2-4-2 平家物語展鑑賞の感想

「今回の展示を観る前に『平家物語絵巻』を美術の教科書などで知っていましたか」という質問項目に対し、「知っていた」と回答した生徒は90.8%で、予備知識の水準は非常に高かった。

平家物語絵巻鑑賞後の感想を、そう思わない(1)からそう思う(5)の5件法で測定した。各項目の平均値と標準偏差を表5に示した。表5に示した4項目のうち、「ほかの作品も見てみたいと思った」を除いた3項目の平均値を、「平家物語絵巻への興味」として以下の分析に用いる ($\alpha=.935$)。

表6 平家物語絵巻の感想

	平均値	標準偏差
「平家物語絵巻」の作品に興味があった	3.84	1.16
「平家物語」の物語の内容に興味があった	3.89	1.18
「平家物語絵巻」をもう一度見たい	3.49	1.14
ほかの美術作品も見てみたいと思った	3.50	1.25

3-3-3 フレーミングと平家物語絵巻の評価

説明文提示後の平家物語絵巻の評価を表7に示した。「この作品を鑑賞できてうれしい」、「この作品をまた観たい」の2項目の平均値を、それぞれの説明文ごとに計算し、「鑑賞評価 (A, B)」とした。また、「このような美術品がある岡山は文化的に豊かである」、「この作品は岡山県民の誇りである」、「この作品は、日本の誇りである」の3項目の平均値を計算し、「文化的評価 (A, B)」とした。各変数の相関を表8に示した¹⁰。

表7 説明文提示後の感想

¹⁰ 説明文の順番を入れ替えたバージョンによる評価の差は有意ではなかった (説明文A:t(139)=0.50, n.s.; 説明文B:t(139)=0.09, n.s.)。

	説明文A		説明文B	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
このような美術品がある岡山は文化的に豊かである	4.33	1.04	4.23	1.17
この作品を鑑賞できてうれしい	3.87	1.12	3.84	1.18
この作品は岡山県民の誇りである	3.92	1.18	3.84	1.24
この作品をまた観たい	4.13	1.07	4.09	1.14
この作品は、日本の誇りである	3.90	1.11	3.81	1.15

表8 説明文後の作品の評価と平家物語絵巻への興味の相関

	文化的評価A	文化的評価B	鑑賞評価A	鑑賞評価B	平家物語興味
文化的評価A	-	0.851	0.844	0.766	0.700
文化的評価B		-	0.742	0.850	0.595
鑑賞評価A			-	0.862	0.781
鑑賞評価B				-	0.746

※相関係数はすべて0.1%水準で有意

文化的評価について、説明文条件を被験者内要因、性別と施設利用頻度を被験者間要因として分散分析を行った。その結果、説明文条件の効果が有意であり ($F(1,138)=4.58$, $p<.05$)、説明文Aの方が評価が高かった (説明文A 平均=4.05, 説明文B 平均=3.93)。また、性別の効果も有意であり ($F(1,138)=5.13$, $p<.05$)、女子の方が評価が高かった (男子平均=3.77, 女子平均=4.20)。

鑑賞評価について、説明文条件を被験者内要因、性別と施設利用頻度を被験者間要因として分散分析を行った結果、説明文条件の効果は有意ではなく ($F(1,138)=0.77$, $n.s.$)、性別の効果は有意傾向であり ($F(1,138)=3.82$, $p=.053$)、女子の方が評価が高かった (男子平均=3.80, 女子平均=4.15)。

3. おわりに

本研究では、作品の希少性に焦点をあてた説明文と経済的価値に焦点をあてた説明文を用いて、説明のフレームが作品の評価に与える影響を検討した。対象者全員が高校生という限定的なサンプルを用いた調査ではあるが、調査の結果、鑑賞後の説明が作品の評価に影響を与えていた。具体的には、作品の希少性を強調した説明文が、作品の経済的な価値を強調した説明文よりも、「日本の誇りであり、岡山県民の誇りである」、「この作品がある岡山が文化的に豊かである」といった作品の文化的側面の評価を高めるといった形の効果がみられた。

調査対象者は、調査票回答前の展示室内に設置された解説パネルで平家物語絵巻に関する多くの解説を読んでいた。それにもかかわらず、調査票で提示された説明文の影響が作品の評価に影響を及ぼしていた。この結果は、作品鑑賞後の説明が、鑑賞者にとっての作品の価値を変化させる効果をもつことを示唆するものである。

本研究では、作品鑑賞後の説明の効果を検討したが、鑑賞前に提示されたフレームにより、

鑑賞の仕方そのものが影響され、ひいては作品への評価に影響を与える可能性も考えられる。今後は、外的価値に関する情報の内容だけでなく、提示のタイミングについても条件を設定し、美術作品評価へのフレーミング効果の影響を検討することが望まれる。

引用文献

Amos Tversky & Daniel Kahneman 1981 The Framing of Decisions and the Psychology of Choice. *Science*, 211, 453-458.

謝辞

調査の実施にあたり、林原美術館の方々と対象高校の方々に多大なるご協力をいただきました。記して心より感謝いたします。

The Effect of Framing by Meta-information of Artwork

: Comparison of a frame emphasizing rarity and one emphasizing economic value

Nahoko Hayashi, Arinori Yosano, Naomi Asari, Nobuo Nakatani,
Keiichi Uchida, and Norio Togiya

The objective of this study is to examine the influence of commentary on works of art on the evaluation of those works of art. In pursuit of this objective, we conducted a survey at a special exhibition of illustrated handscrolls of the Tale of the Heike, using high school students as subjects. For this survey, we displayed two different commentaries on the illustrated handscrolls of the Tale of the Heike, and had respondents evaluate the scrolls after reading each commentary. While one of the commentaries placed an emphasis the rarity of the scrolls, the other placed an emphasis on their economic value. Over the period of the study, 142 high school students completed our survey after viewing the exhibition. Analysis shows that respondents evaluated the cultural value of the illustrated handscrolls of the Tale of the Heike more highly after reading the commentary emphasizing their rarity than they did after reading the commentary that emphasized their economic value. This result indicates that commentary framing has an influence on the evaluation of works of art.

Keywords: Art Appreciation, Framing, Intrinsic Value, Extrinsic Value